

月刊反トマホーク通信

No. 21
87.7.20
定価 100円

東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎03(498)6095

核艦船を止める市民の連絡網

反核 ホットライン



トマホーク艦の入港を知らせよう……



とんぼん電話……
知らせよう。



会員急募!

トマ喰い虫社に連絡下さい。非核コードとホットラインの手引書、ハガキのセットをすぐお送りします。そう、会費(どうしてもお金がかかるのです)2000円(1年分)もお忘れなく。



抗議の
勢いを著せよう!



●横須賀・佐世保に入港する船の核(トマホーク)疑惑度を採点した非核コードを作りました。

●これはアヤシイ、マックロだという艦船の入港情報を電話で連絡します。

●電話を受けたあなたは……

☆抗議や要請のハガキを出す。

あるいは電話をかける。あて先は外務省、当の市長や知事、そして米軍。☆友人、知人に連絡する「あなたもハガキや電話を、ね」

●一人一人の思いがこんなふうにつながって、ある日核艦船がほんとに止まったら何て素敵なことだろう!

原子力艦入港情報 **テレホンサービス** を始めました。
プッシュホンで、まず **井8301**、そして連絡番号 **968・1071**、次に暗誦番号 **1071**
クロハ イレナイ イレナイ



天気予報と同じように、テープがその日の入港情報をお伝えします。そして抗議ハガキを!

トマホークの配備を許すな! 全国運動

●維持会員(月間会費)

●参加会員(月間会費)

●通信会員

団体 1日 2000円
個人 1日 1000円

団体 1日 1000円
個人 1日 500円

年間 2000円

あなたも仲間!

第9回 全国会議を終えて 7.11~12

「全国運動事務局から」
感謝の言葉はそのままお返ししなければなりません。
呉・広島の方々のチームワークのとれた心遣いで会議はたいそう実りあるものとなりました。会場もなかなか素敵でしたよ！
さて、会議の内容をもう少し紹介しましょう。
参加者は四十四人。まず、二つのやや長い報告がありました。一つは熊本の本田公司さんからえびの海上自衛隊VLF建設計画と反対運動について。スライド「あぶない えびのVLF送信所」を上映。このスライドを使つての世論喚起と来年には公聴会の開催を計画とのこと。もう一つは横須賀の新倉裕史さんから神奈川での核艦船入港拒否運動の報告。内容は今号と次号で再録します。続く特別セッション「中国地方の反基地・反戦運動」も今号と次号で。

自由討論の冒頭には京都の林さんから分厚い新聞スク

りの強行スケジュールでしたが、これでやっと全国会議が終わり肩の荷がおりました。
概ね年一回の全国会議として十分な内容になったかどうか不安ですが、私たち呉・広島の方たちにとっては複数のメンバーが各地の最前線で闘っている人と直接、交わる機会を得たことは大きな収穫でした。忙しい中、各地から参加していただいた皆さん、また直接の参加は果せずとも各地でそれぞれの闘いを進めておられる皆さんのご協力に感謝します。
(トマホークの配備を許すな呉市民の会 湯浅一郎)

「全国運動事務局から」

感謝の言葉はそのままお返ししなければなりません。
呉・広島の方々のチームワークのとれた心遣いで会議はたいそう実りあるものとなりました。会場もなかなか素敵でしたよ！

さて、会議の内容をもう少し紹介しましょう。

参加者は四十四人。まず、二つのやや長い報告がありました。一つは熊本の本田公司さんからえびの海上自衛隊VLF建設計画と反対運動について。スライド「あぶない えびのVLF送信所」を上映。このスライドを使つての世論喚起と来年には公聴会の開催を計画とのこと。もう一つは横須賀の新倉裕史さんから神奈川での核艦船入港拒否運動の報告。内容は今号と次号で再録します。続く特別セッション「中国地方の反基地・反戦運動」も今号と次号で。

自由討論の冒頭には京都の林さんから分厚い新聞スク

りの強行スケジュールでしたが、これでやっと全国会議が終わり肩の荷がおりました。
概ね年一回の全国会議として十分な内容になったかどうか不安ですが、私たち呉・広島の方たちにとっては複数のメンバーが各地の最前線で闘っている人と直接、交わる機会を得たことは大きな収穫でした。忙しい中、各地から参加していただいた皆さん、また直接の参加は果せずとも各地でそれぞれの闘いを進めておられる皆さんのご協力に感謝します。
(トマホークの配備を許すな呉市民の会 湯浅一郎)

呉にて



全国会議の準備に追われていた七月七日、九日から十二日にかけて米艦船が呉港に入るとの情報が舞い込んできました。駆逐艦オルデンドーフ、フリゲート艦カークとメイヤーコードの三隻。どれも核・非核両用の対潜魚雷アスロックを積んでおり、前二者は横須賀を母港とした、トマホークの配備予定艦。呉には毎年七月下旬に数隻の米艦船がくるので実は私たちも半ば意識して、全国会議の日程を決めたのですが、蓋を開けてみたら、ばっちり同じ日付になったことには驚きました。とにかく抗議行動をおこなねばと、急遽連絡をとりあい、入港当日の九日早朝の行動をセットしました。当日は広島からのメンバーも含め二十人で海上自衛隊Fバースのゲート前で抗議し、呉市への申入れを行いました。そうこうしているうちに、全国会議直前の準備が十分できず、各地からこられた皆さんにご迷惑をかけたのではないかと心配しています。
そんな慌しさの中で、全国会議は始まったわけですが、会場の呉温泉は私たちも使うのは初めてで若干の不安もありましたが、お茶の面倒などのサービスも割合よく、何よりも夜の交流会を午前？時まで続けていても、文句一つでなかったので一安心でした。

ここは地域の年配の人がきては、風呂に入り、歌や演劇を楽しんで帰るヘルス・センターのようなもので、部屋には提灯がかり、少し歩くと浴衣姿の役者に会うという雰囲気のでした。そんな中での全国会議で、良かったのかどうか……
更に会議二日目の日曜には、今度は岩国にFA18「ホーネット」六機が、米本土から飛来しました。そして横須賀には原潜ボートマスが入り、三宅島では住民の意思を無視して気象観測用鉄塔の建設が強行されんとし、日米の統合指揮所演習が始まるというめまぐるしい動きの中の全国会議となりました。かくして会議の中で呉、岩国、三宅そして指揮所演習への抗議・申入れ文を決議し、横須賀の原潜に対しては、会議でも提起された反核ホットラインの運動を実行にうつすものとして参加者全員が抗議ハガキを書くという慌しさでした。
基地のある町での全国会議は、第一回横須賀以来ではないかと思いますが、そのせいもあってか、会議終了後の基地見学には二十数名が参加しました。佐世保の佐々木竹一さんたちは「地形や雰囲気は佐世保に良く似ているな」と感想を述べられ、自衛艦が見えると私たちより詳しい人が沢山いて、誰が案内しているのかわからない感じで、色々勉強になりました。自衛隊のFバースを見下す串山公園では記念撮影をしました。
十三日には京都の吉田満智子さんにご無理をいって残っていた朝から一日がかりで全国会議で決議した呉、岩国への申入れ行動を行いました。呉市、岩国防衛施設事務所、岩国の米海兵隊、岩国市と四カ所を訪れ、かな

ラップをもとに情勢の提起がありました。ペルシャ湾や南太平洋の情勢、日本の防衛分担、日米韓軍事一体化……アメリカの軍事戦略研究家W・アーキン氏からのコメント「日本の運動は日本がアメリカの攻撃的戦略を受入れてしまっていることに焦点を当てるべきだ」が胸につきさりました。

討論の結果おおかたの合意を得たおもな事柄を以下に記します。勿論、これらは参加者をしばるものなどではなく、各地の運動の前進に生かしていくという性質のものであります。

一 核艦船戦艦拒否運動を強めよう。①非核コードを活用し反核ホットライン運動に取組もう。②非核自治体運動に核艦船拒否を訴えよう。

二 通信基地反対運動を前進させよう。各運動間のネットワークを作ろう。

三 「キーンエッジ88」「チームスピリット88」「リムパック88」など大きな軍事演習に反対する運動を起こそう。

四 「海の軍備撤廃をめざす国際ウィークエンド」の呼び掛けが来年もあれば活用しよう。

五 八月の広島・長崎の集りに「広島を核の発射台にするな」など具体的な訴えをしよう。

このほか、電話相談システムによる全国運営委員の設置。情報ネットワークキングの強化、調査研究、国際活動のための人的・物的基盤づくり、など。次回は東京で。

警戒警報！

戦艦ミズーリ 日本寄港か？

ペルシャ湾への往路か復路

ハワイからの情報によれば戦艦ミズーリは7月25～26日にカリフォルニアを出港、8月15日頃ペルシャ湾に到着する。途中経路からいって日本寄港が要注意。もし、往路とすれば広島・長崎の日近辺だろう。今回の作戦行動自体、大国主義丸だしの軍事介入で大問題だが、その動き、ことさらしっかり注目する必要あり。

反核

数限りない
思いが
つながれば

ホットライン

これは、このデータによつて今日入った船は怪しい、しかるべき抗議行動をするべきであると判断した場合には、すぐ動ける人は今日もやるように基地ゲート前にかけて抗議行動をやる。そうでない人のために四点セツトのハガキをつくります。宛先は市と県と外務省と米軍基地。とにかく抗議のハガキを集中する。始めは何十という単位だと思つておくれども、ゆくゆくは何千という単位のハガキが集中するところまで、反核ホットラインを全県下にくまなくはりめぐらそうと思つています。例えば県の高校の先生の組合は少なくとも二百のハガキが出せるように自分達の運動として取組むといつています。このような組合がもっとふえ、同時に個人参加の市民のネットワークが作られていけば、千という単位のハガキが自治体に基地にあるいは外務省に行くといふことは決して夢の話ではないと思つています。

やりっぱなしの運動にどうしてもなりやすいので、何か空気をたたくだけの感じになってしまう。デモとちがって隣でやっている人が見えませんので、へたをすると一回こっきりで終わってしまいかねないという弱点を持つのですが、そこをうまくカバーするために、自治体にはまず抗議の数がどのくらい来たのかということをきちんとモニターしてもらえるように交渉して、そのつど発表してもらう実はこれは、すでに厚木基地ではやっていることなのです。七月十四日にはミッドウェーが横須賀に帰ってきて、また夜間飛行訓練が始まるんですけれども、周辺の自治体に市民からかかった苦情の電話の数を、自治体が発表しているんですね。市民の抗議の数はしっかりカウントされて、自分のやった行為がもういちどフィードバックされるしくみをこのホットラインの中にも作ろうと思います。

ホットラインは電話で情報を流すのですけれども、それはいわば受身の情報収集の仕方

非核コードと反核ホットラインというのは、仕掛けが大きくて実際どれだけきちつとした

ものになるかどうかは不安なんですけど、少なくとも仕組み、枠組みとしては県宣言が作られた時に匹敵するようなのを作られつつあつて、要は一人一人の「止めたい」という思いがどれだけ確かなものとして県民の中に残っているのかということが勝負の分れ目だなと思つています。私達が出している「非核市民宣言運動だより」がみなさんのお手元にあると思うんですけど、村上さんという反トマ草の根署名運動から外に出るようになった人が、署名運動をやつて、それなりの成果を得て、それから続かなくなつて、だけど一人で原潜が入るたびに手紙を書いていたんですね。市長宛てに。噂ではそういうことをやつていると聞いていたましたが、まさかあいう長い手紙をそのつどめんめんと書いていたとは思つていなかった。それを読ませてもらったんですけど、あれだけ自分の思込みをきちんと伝えようとする人がいたんだということに驚いて、驚いた自分自身に少しやばいなと思つた。そういう数限りない村上さんが横に繋がつていけばこのホットラインも相当の力を発揮するのではないかとおもっています。

（次号は「核艦船差止め訴訟」「横須賀定例一万人デモ」「平和船団」）

このコードの●■印はトマホークのみ表示します。空母艦載機の核運用は艦船リストから除外。水上艦船のアスロック（対潜ミサイル）、攻撃型原潜のサブロック（対潜ロケット爆雷）などは他の核兵器搭載判断の欄を参照下さい。

[illegible]

中国地方の 反核・反基地運動

(上)

全国会議
での報告

文責 編集部



広島

「平和都市ヒロシマ」の

侵略拠点化をはばむ

加藤まさき（ストップ・ザ・戦争への道ひろしま講座）

私は去年東京から広島にやってきました。広島というところは平和都市広島というイメージがあつて、期待に心もはずんで来たのですが、このかんひろしま講座の人たちと話しをつづけてきて、広島とは果たしてなんだったんだらうという思いを持たされています。

広島は平和都市というよりも、過去には軍都の顔を持っていました。そのあたりのことは、「ザ・デイ・ビフォー・ヒロシマ」というパンフに戦前と今日の広島を浮き彫りにする形で書かれています。

結局被爆がなぜ起きたのかをつきつめて考えていくと、侵略の拠点だったからではないかという思いが出てきます。それがまた今日もなおかつそうなっているんじゃないか。特に岩国へホーネットが極東ではじめて配備されると聞くと、単にミッドウエーの艦載機が飛んでくるとかいうことではなくて、これは核攻撃機じゃないか、という気持ちが湧き起こってくるんです。

五月三十一日の「海の軍備撤廃をめざす国際ウイークエンド」に、私たちは「いれるな

核艦船 とばすな核攻撃機」というスローガンを打ち出しました。メリルの入港以後、私たちはずっと広島県、広島市、基地にたいして抗議行動や申し入れをしてきたわけですが、その背後にあった思いを皆さんにお伝えしたいと思うのです。

具体的な行動としては、呉にメリルが入港したときにも呉市、広島県、広島市に申し入れを行い、文書で回答するよう要請しています。文書回答は貰っているんですが、それがはなはだだらしがないものであるため、しつこくしつこく要請をしています。

今年になってからは、防衛費一歩突破に ついての抗議や、岩国基地でのオーバーラン事故、F4ファントムからスパロミサイルが落ちたことに対しての岩国基地司令官あての抗議などを行いました。

五月三十一日のウイークエンドのときには二千枚のビラをまき、原爆塔の前で座り込みをしました。六月十三日には岩国市職労の平和問題懇談会と交流会を行いました。今年の十月には防衛施設局が呉から広島に移転する

ことが明らかになっています。中国地方で攻撃の拠点となるような軍備の体制が固まっているんですが、やっぱり韓国情勢と連動しているんじゃないかと思えますし、下関や岩

国は韓国に一番近いということで、韓国の民衆が闘っているときに攻撃に行くような飛行機を飛ばしてなるものかという気持ちで私たちは頑張りたいと思います。

美保

市が広報車で核燃料輸送を知らせる

和田薫（米子市政府）

美保基地群の中には、象のおりとよばれる高さ三十六メートル、周囲三キロの通信所があり、また近くの高雄山にレーダーサイトがあります。核戦争があつた場合、通信所は狙われやすいわけで、もしここが破壊されたり、故障した場合ということを想定して、移動部隊もつづられています。

米子では反トマホークの運動は、三年前「戦争はいやだ市民の集い」という名称でトマホークのはりぼてをかついで、米子市内をサンパのリズムでパレードしました。今年あたり、ぜひとも反核というテーマでまたパレードをしたいと考えています。

島根原発2号炉の核燃料搬入が、この六月三段階にわかれてありました。自分たちは通過地点なんです、今まで一生懸命行政交渉をやってきました、かなりの歴史があるんで

すが、今回初めて米子市の方が住民に広報車を出す約束してくれました。六月二日、自分たちも反対行動に出たんですが、一回目は蚊の泣くような声で、二回目はかなり大きな声で、市の広報車の放送が流れました。実際、チェルノブイリの事故があつてから行政の方も、核は安全であるということをはや言えなくなりました。一番ビビっているのが消防署員です。今のところ、米子市や広域行政では防護服を着るも持っていないんです。チェルノブイリがあつてから消防士たちがうるさく話しまして、ようやく三年計画で防護服が二着出来るようです。核燃料輸送については、米子市政研は五つの市と町を行政交渉の対象にしています。今回「町長さん出てみない。どんなに危ないことなんかな」というように見てもええなみたいです。

ここまで来たんだから、核燃料の鳥取県内通過を拒否しよう、案外出来るんじゃないかという雰囲気になってきました。

米子から境港へ向かつて美保湾というのが広がっているんですが、その海岸沿いに美保基地があります。米子空港というのは実は、美保基地の中にある民間の飛行場なんです。あくまでも民間が基地を利用させてもらっているという形になるわけです。

自衛隊の基地の中に民間の飛行場があるため、C-1輸送機と民間機が譲り合うといったことがしばしば起こる。どちらが先に飛び立つかというC-1が先になるんですね。こういう危ない状態ですので、いつかドカンがあるかもしれないと思っています。C-1が来ても五、六年もたつてしまったんですが、かなりの騒音で地域住民から色んな苦情が出ています。行政でもアライバイ的に騒音調査をやっているようなんですが、いっこうにその報告が手元に回ってこないのが不思議です。

海外短信

グリーンピース

海洋非核化に乗り出す



国際的な環境保護団体グリーンピース（本部 西ドイツ）は七月十日、「核のない海」の実現をめざして新しいキャンペーンを展開するとワシントンで発表した。この日は仏情報機関による「虹の戦士号」爆破からちょうど二年目。五隻の活動船で米、ソ、英、仏の海域をまわり非核国に対する核搭載艦船の寄港反対などを訴える。（七月十二日「朝日」）

INF（中距離核兵器）削減交渉の進展とともに、来年の国連軍縮総会にむけて海洋核配備への関心は世界的に高まりつつある。

ベラウ「自由連合協定」国民投票

五度目も否決

六月三〇日行われた国民投票の結果、アメリカとの自由連合協定に対して賛成は六十八パーセントと批准に必要な七十五パーセントに達せず否決された。政府筋は来年十一月の大統領選挙まで自由連合協定はもうやらないと表明している。（反核パシフィックセンタ―東京発行「パシフィカ」No3より）

会計報告

(87. 6. 4~7. 5)

〔収入〕

○前月からの繰越	132400
○会費収入	132000
内	
維持会員	82000
維持個人	27000
参加団体	0
訳	
参加個人	15000
通信会員	8000

(計) 264400

〔支出〕

●家賃（7月分）	40000
●電話代	9070
●郵送費	73630
●文具費	12900
●印刷費	14550
●手数料	300
●次月への繰越	113950

(計) 264400



今号では呉での全国会議の報告がほぼ全紙面を占めることになりましたが、この一月余りの間に沢山の重要な出来事がおこりました。思付くままに挙げてみても、東芝機械ココム違反事件とそれをとらえたアメリカからの声高な防衛分担要求、ベルシャ湾への米艦隊派遣、三宅島への気象観測塔建設強行と住民の抵抗、韓国民民主化闘争の高揚、勝利、などなど。いずれも運動の視点から吟味する価値のある問題ばかりです。次号からこれ等の問題を順次取上げていきたいと思えます。投稿歓迎します。それから各地の動き、運動情報、アピールや暮らしの中の思い、いつでもまっています。

(た)

月刊反トマホーク通信 No 21

一九八七年七月二〇日発行

*発行 トマホークの配備を許すな全国運動

(東京都渋谷区渋谷二一五―九パル

青山五〇二 トマ喰い虫社

☎〇三(四九八)六〇九五

*編集 反トマホーク通信編集委員会

*定価 100円(通信会員年間2000円)